

「よそはどうなの？」 番外編

東京大学医学部附属病院 検査部

久米幸夫

検査の業界は病院検査部をはじめ、検査センターまで様々な形態をとり、それぞれの事情と特色があると思います。今回は私が経験した病院検査部の立場から、私が感じた私立病院と国立病院の違いについて、私見ですが述べさせていただきたいと思います。

私立大学と国立大学の相違点

私立と国立大学の相違は事務処理の差から生じていると感じます。

私立では、年間予算はきめ細かく計算され、必要経費は切り詰められて厳しく管理され、利益を生み出さない部門は容赦なく切り捨てられます。しかし、利益が期待される分野には惜しみなく予算が分配されます。年間予算は細かく分析され、機器老朽化に伴う修理費の増加もあらかじめ計算されて、年々の増加もある程度は認められます。労働環境としては国立と比較してかなりきつく、身分保障が国立と比べあまりよくないので、常に自分の存在価値を示してる必要があります。

一方、国立の年間予算は大雑把な試算で決められているように思えます。例えば機器の導入から年数が経つほど修理費は増加するものですが、その概念はなく、老朽化に伴う修理費の変動などは計算されません。その結果、導入初期のトラブルが少ない年度を基に年間修理費が決定されてしまい、更新まで変動は許されません。

当然、機器の老朽化に伴い、年々修理予算が不足してしまいます。そのため機器の整備不良を生じ、私立より早く機器の寿命を迎え、更新が早くなるのかもしれませんが。しかし、国立の良いところもあります。例えば、私立と比較して採算部門と非採算部門の格差はなく、非採算部門は私立と比較し非常に整った環境で検査が行われているように思われます。働く環境も私立と比較し安定し保証されていますので安心して働ける環境にあります。研究についても私立と比べて非常に恵まれた環境にあると思います。